

4時半の始発に乗って朝練をこなし、1限から授業へ。試験や資格の勉強に励みつつ、夜まで自主練やジムでのトレーニングに汗を流す。「今しかできないことを全部やりたい」と多忙な毎日を楽しげに駆け抜ける。「約170人の部員皆で、学生リーグの全カテゴリーを制覇する『全層優勝』を目指しています」。7月に開幕する世界選手権には、日本代表として出場予定。巧みなドロー*を武器に、悲願の強豪国突破を狙う。タッチラグビー選手としての顔も持ち、2024年には両競技で世界選手権に出場した。幼少期から高校までフィリピンに暮らした。「学べる自分は恵まれている。人の役に立ちたい」と医学の道へ。「途上国の公衆衛生のほか、整形外科や乳腺外科など興味ある領域は多い。じっくり考えたい」



早慶戦でのプレー



公式戦のドローにて



世界選手権の日本開催は約30年ぶり。「お世話になった方々にいいプレーをお見せしたい」

*試合開始時や得点後に、審判のホイッスルを合図に空中に飛ばしたボールを奪い合う。攻撃権を争う重要なプレー。